

2 KJ法による明倫短期大学講義における問題抽出

○植木一範, 相馬泰栄, 佐々木 聡, 五十嵐雅子, 中澤孝敏, 伊藤圭一
明倫短期大学 歯科技工士学科

keywords : KJ法, 問題解決, 教育方法, 講義

はじめに

明倫短期大学では, 自己点検評価の活動として学生による教育の評価が行われているが, どのように改善したら良いかという具体的な意見を得る機会は少ない。今回, 歯科技工士学科で例年実施している研修会において, 本年度は大学の講義をテーマとして問題抽出や改善策の発案を行い, 各項目の重要度もしくは緊急度を調査したので報告した。

対象および方法

対象学生は, 平成19年度歯科技工士学科1年次学生53名とした。実施時期は, 大学の講義に慣れた7月中旬とした。KJ法の実施は, 6グループ(各グループ8~9名)とし, 教員1名ずつを配置した。今回のテーマとして, 歯科技工士学科講義における教育方法や設備における問題点を抽出し原因分類した。さらに2次元展開法を用い, 横軸を重要度, 縦軸を緊急度とする2次元平面を作り, それぞれ得点化し, 問題解決の優先度(5段階評価)を検討した。その結果に対し, 具体的な問題解決策を各自に立案させた。

結果および考察

学生が学び難い, 理解し難いと感じる大学講義とは, 具体的にどのような点が解決の優先的問題であるのか意見抽出した結果, 図1のパレート図に示すように「教示方法」「環境」に分類される2項目が重要度, 緊急度ともに高い位置に占め, 解決項目の約5割を占める優先すべき解決項目となった。表1に示す項目は, 優先度5に分類された具体的な項目の一例である。「どこが重要であるか明確にする」「重要な所を繰り返す」「スライドや黒板, プリントの使い方を工夫する」「声が聞き取りにくい」「内容が難しい」といった教員の工夫に

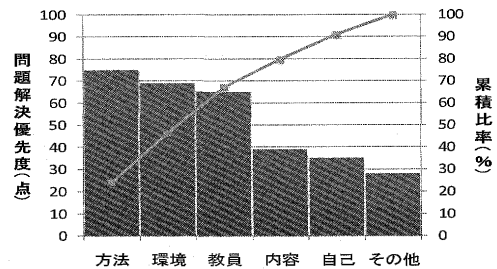


図1 問題解決優先度

表1 問題解決優先度5の主たる項目

| | |
|-------------|--|
| スライドに関する項目 | スライドのプリントが欲しい スライドをわかりやすく使って欲しい スライドに文字ばかり, 字が小さい スライドを送るのが早い |
| 板書や説明に関する項目 | ただ板書をしないで欲しい 黒板を有効活用していない 黒板が見つらい 説明がわかりにくい |
| 進行などその他の項目 | 進行が早い(スライドの講義は特に) 一回の講義の内容が多すぎる どこが重要かわからない 重要なことを繰り返して欲しい 授業が単調 90分授業に休憩時間を |

よって問題の解消がなされる項目が多くあげられた。また, 「大学の設備環境」では, 椅子や机に関する項目が緊急度の高い位置に占めた。「学生の問題」「気力」などの項目は優先度の低い位置にあった。

まとめ

このKJ法を用いた発想法の研修会は, 学生の創造性を促すとともに, 研修旅行という非日常から日常へ回帰することによって, 反省や新しい考え方を導き, グループ討議を行う中で有意義な発想や発言の訓練の場となっているようだ。普段の学生から想像のできない良い意見が多数出てきているので, 今後の講義の方法や設備改善などの参考にされたら幸いである。